

1 本授業について

本授業は平成 24 年度前学期の水曜日 4 限にある教職科目 A の「初等図画工作科教育法」である。受講者は教育学 14 名、教育心理学 9 名、幼年教育 7 名、音楽教育 3 名、英語教育 8 名、聴覚言語 8 名、発達 13 名、その他の学年 1 名の計 63 名であった。63 名中 62 名が単位を取得している。

2 授業の目的

本授業では小学校図画工作科を担当するために、図画工作科の目標や内容を理解し、教材の開発や指導方法などの学習指導にかかわる実践力を身につけることを目的としている。本授業の到達目標は以下のように設定した。

(1) 小学校図画工作科における各学年の目標や内容を説明することができる。

(2) 子どもの発達特性を踏まえた教材開発や授業設計の方法を身に付ける。

(3) 模擬授業を通して図画工作科を担当するために必要な実践力を身につける。

3 授業を行う上での工夫

① 「素材体験」

前年度と同様に、前半は「ライン」・「新聞紙」・「段ボール」といった「素材体験」(素材を用いた造形活動)と、「子どもの絵の発達段階」や「造形遊び」といった講義を交互に実施するなど、理論と実践の往還を意図した授業展開を心がけた。例えば、「ライン」を素材とした造形活動を行うことで、学生は様々な「線」の表現を楽しむとともに、「線」の表現の多様さに気付く。その次に「子どもの絵の発達過程」についての講義をすることで、子どもがあらわす「線」の豊かな表情を捉えやすくなるような工夫を行っている。

② 模擬授業

後半は模擬授業を中心としたスケジュールを組んでいるが、前年度に「模擬授業がちょっとあわただしかった」といった、模擬授業の時間設定に関する課題があったため、模擬授業を 3 回から 1 回分増や

して計 4 回にすることで対応している。

また、模擬授業を実施するにあたり、受講生を全 12 チームに割り振り、必ず全員が模擬授業を行えるようにしている。そのため、1 チームに与えられている時間は 20 分程度で、授業は「導入」だけを行うように指定した。図画工作科において、素材と子どもたちの出会いの場となる授業の導入が、その後の活動の鍵を握る非常に重要な場面であることや、授業の中で子どもたちにどのような「学び」を培っていくのか、という目標をしっかりと練っていただかなければならない。単元全体を考えなくては、導入部分は成立しないため、このような指定を行った。

さらに、全員が模擬授業を担当することによって、受講生全員に「当事者意識」を持たせるねらいがある。ひとり一人が当事者であることを意識することで、模擬授業に対して主体的に取り組み、他の班の授業にも積極的に参加できるようになると考えている。

また、前年度は、模擬授業の内容を意図的に分散させるために、チームがそれぞれ「絵や立体に表す活動」、「工作に表す活動」、「鑑賞の活動」を分担し、全学年の全内容を網羅する工夫を行ったが、今年度は、内容を指定せずに、各チームがそれぞれ興味・関心のある内容を実施することとした。これは、本授業において、模擬授業がそれまでの講義の中で学習してきた知識を活用する重要な位置づけとしているため、ひとり一人がより主体的に取り組むことを主眼においた変更である。

4 授業アンケートの結果

授業アンケート(平成 24 年 7 月 25 日に実施)は、受講生 63 名のうち、教採等で欠席している 5 名を除いた 58 名の回答を得ることができた。

授業全体については、【総合的にこの授業は満足だった】という設問に対して、「まあまああてはまる」14 名、「とてもあてはまる」44 名、という回答を得たとともに、【全体的にこの授業を真剣に受けた。】という設問に対しては、「まあまああてはまる」22

名、「とてもあてはまる」36名という回答を得た。この結果から、多くの学生が積極的に授業に取り組んでいたと判断することができる。しかし、【授業時間以外に予習や復習をするよう努力した】という設問では、「あまりあてはまらない」35名、「まあまああてはまる」14名、「とてもあてはまる」2名という結果であったため、授業時間外での予習や復習を促す取り組みが不足していたということが浮き彫りになった。

① 「素材体験」について

「素材体験」についての設問【素材体験は授業理解に必要である。】には、「まあまああてはまる」10名、「とてもあてはまる」48名という結果を得ることができた。学生からは、以下のような感想もみられた。

- ・知識だけではなく、実際に素材体験できるのが良かった
 - ・講義と実践を組み合わせることで、より実感をもって、考えていくことができました。
 - ・素材体験をすることで、教育者からの視点・子ども側の視点で考えることができた。
 - ・特別珍しい物を使うでもなく身近な物を改めてじっくり見るというありそうでなかった時間を持てた
- このことから、本授業の工夫点でもある「理論と実践の往還を意図した授業展開」が、学生に評価されていたことがわかる。しかし、「他の素材についての紹介がほしいとも感じた」という意見も数件みられたので、その点については、身近なもの以外にも簡単に紹介する時間を設定するなどの改善を図りたい。

② 模擬授業について

【初等図画工作科教育法で時に印象に残っている講義はどれですか？(複数回答可)】という設問では、「素材体験：段ボール」38票を抑えて、「模擬授業」は43票という最も多くの票を得る結果となった。このことから、教育実習を控えている受講生にとって、模擬授業に対する意識は極めて高いことが分かる。模擬授業について、授業での取り組みに関する学生の意見の抽出をねらいとして、【模擬授業は受講生全員が発表するようにしたため導入部分だけになったが、方法として有効であった】という問いを設けた。回答結果は「あまりあてはまらない」7名、

「まあまああてはまる」39名、「とてもあてはまる」12名となった。

模擬授業について「良いと思った点」についての記述は以下のようなものがみられた。

- ・導入で子どもの興味を引きつけられるかという理念も納得できたし、多くの授業を観ることができたため。
- ・全員が授業づくりについて考えることができる。
- ・導入部分はさっと生徒をひきつけて終わりという感じなので、あえてそこをすることで重要性が身についた。

これらの意見からは、「導入部分の重要性」や、「受講生全員に当事者意識」をもたせるといった授業の意図が、受講生に反映されていたことがわかる。

一方で、「改善してほしい点」については、以下のような回答を得られた。

- ・15分では実際にどのように進めるのか分からないこともあった
- ・導入だけじゃ班の意図が伝わりにくい
- ・時間の制限はありますが、45分間授業ができればいいなあと思います。

こうした模擬授業の時間を長くしてほしいといった意見だけでなく、中には、もっと模擬授業を深めるために、質疑応答の時間や研究討議の時間の設定を求める意見もあった。

本年度は、導入部分の重要性を伝えることができたものの、授業の一連の流れも学習したいという新たな課題に対応していく必要性が生まれた。そのため、次年度は、このような意見を反映させるような模擬授業のスケジュールを、改めて設定することが課題として残った。

5 その他の次年度の課題

昨年度からの課題でもあったパワーポイントを用いた講義については、今年度も「講義のパワーポイントの指示のはやさ、かっこの大きさなど、改善して頂けると、より分かりやすくなると思います。」という意見があり、十分な改善が図られていなかったため、引き続き、改善できるように工夫をしていくこととする。また、「実際に小学校で行われている授業のビデオを見る機会が、もう少しあればよかった。」といった意見もあったので、こうした受講生の声を、反映させた授業展開を図っていきたい。